

# モンゴル語ジャロート方言の “-di:”について\*

芦村 京

1999年11月22日(月)  
言語学演習(3限)

## 概要

今回の発表では、内モンゴル東部のモンゴル語に特徴的な、“-di:”という接尾辞について、考察をしたい。

この接尾辞は、漢語の「～的、～地」から、はいたものとおもわれる、形容詞・副詞形成接尾辞で、この地方のモンゴル語のみにみられるものである。今回は、この接尾辞が、この地方のモンゴル語に、どのようにとりいれられたかを、みてみることにしたい。

## 1 対象となる方言

今回対象とするのは、中華人民共和国、内モンゴル自治区東部の、通遼市のジャロートの方言である<sup>1</sup>(地図参照)。伝統的な分類(たとえば、Čenggeltei: 1978)では、ホルチン方言とされる地域であるが、こまかいところで、いわゆるホルチン方言とことなる部分もおおい<sup>2</sup>。

かれらは、農業をいとなんでおり、一見すると、ふつうの漢人とかわりがないが、本人たちは、生活習慣は、漢族とはまったくちがうものと認識している<sup>3</sup>。学校教育は、モンゴル語でおこなわれており、そのなかで漢語もおしえられている。ただし、日本の英語教育とおなじで、日常生活でつかうことがまずないため、流暢にはなせるものは、かなりすくない。

その一方で、このジャロート方言にかぎらず、内モンゴル東部の方言は、漢語からの借用語がとてもおおいことが、特徴とされている。たとえば、日常生活の発話を再現してみる。比較のために、内モンゴルの標準語とされているチャハル方言も、あわせてのせる。

(1) a. sə:lun                      kaj-aad              yab-ii

トラクター (<ch. 四輪)-ACC 運転する-副動・順接 いく-終止・意志

「トラクターを運転していこう」(ジャロート)

\*今回の発表は、1994年8月から1996年12月までの、内モンゴル留学期間中の調査のデータと、日本にすむインフォーマントからのインタビューがもとになっている。インフォーマントは、27才女性、日本人男性と結婚して日本にすみ、1年半程たっている。

<sup>1</sup>つぎの点にも注意しておく必要がある。内モンゴルでは、農業をいとなむ地域(東北部)と、それ以外(遊牧・半農半牧)という区分が、無意識のうちになされている。そして、農業は漢族の影響とみなされるため、東北部のステータスはかなり低くみられており、言語的にもみだれたものとみなされている。そして、東北部のモンゴル人自身も、そのように感じている。

<sup>2</sup>一例をあげておく。モンゴル語の母音は、a, ə, i, ɔ, o, e, u の7つである。一方、ホルチン方言はəがなくuで発音し、母音の数が6つであるところが、特徴のひとつとされているが、ジャロート方言には7つの母音がある。

<sup>3</sup>ただし、漢族との直接のつきあい自体が、まれであるため、かれらが漢族についてどの程度のことを知っているかは、わからない。発表者も漢族のくらしについては不明。

- b. sə:lun                      dʒolo:d-tʃ              jab-ii  
 トラクター (<ch. 四輪)-ACC 運転する-副動・順接いく-終止・意志  
 「トラクターを運転していこう」(チャハル<sup>4</sup>)

モンゴル語には、動詞を形成する接辞(-la-)があるにもかかわらず、ジャロート方言(1-a)では、漢語の“開(運転する)”をそのままもちいている。一方チャハル方言では、“dʒɔɾɔɔ”という、モンゴル語である。

- (2) a. sandʒen-le:              kaixoi(-la)-na  
 三時(<ch. 三点)-DAT 会議をはじめる(<ch. 開会)(-動詞形成接辞)-終止・現在  
 「三時に会議がはじまります」(ジャロート)
- b. gorban-tʃag-a:s xoral              exel-ne  
 三時-ABL                      会議-NOM はじまる-終止・現在  
 「三時から会議がはじまります」(チャハル)

この例では、漢語の“開会”に、動詞形成接辞“-la-”がついている。ただしこの場合、つけるかつかないかには、個人のなかでもゆれがあり、また、

- (3) kaixoi xi:-ne  
 開会-ACC する-終止・現在  
 「会議をはじめる」

という言い方まで、可能である<sup>5</sup>。

## 2 “-di:”

以上のように、内モンゴル東北部の方言は、他の方言にくらべると、かなり大胆に漢語をとりいれる方言であるが、他の方言と何がどのようにことなるかに関する研究は、ほとんどおこなわれていない。また、そのためには、膨大な量の言語資料の活用が不可欠になるであろう。

そこで、今回とりあげて考察するのは、“-di:”という接尾辞である。この接尾辞は、主に漢語につけて、形容詞・副詞を形成するものである。他の地域の方言話者が、東北部の方言を、漢語ばかりでみだれていると非難するときに、まっ先にでてくるのも、この接尾辞である。おそらく、漢語の“的”、“地”と同じものとおもわれる。

- (4) la:-di: ひりひりと辛い(<ch. 辣 là)

反復すると、意味がつよくなる<sup>6</sup>。

<sup>4</sup>内モンゴルの標準語とされる方言。

<sup>5</sup>このことは、“-la-”が、名詞から動詞をつくる接辞であることと、関係があるかも知れない。つまり、“開会”が名詞と感じられるか、動詞と感じられるかで、“-la-”がでたりでなかったりするのかも知れない。ただし、これは、憶測の域をでない。

<sup>6</sup>ここでは、(4)のようなものを基本形、(5)のようなものを反復形と呼ぶことにする。また、アクセントは、基本形の場合は-di:に、反復形の場合は語頭におかれる。

- (5) la:la:-di: とても辛い (<ch. 辣 là)

ただ、この接尾辞が、とても生産性のあるものかという点、そうではない。

- (6) \*man-di: のろのろした (<ch. 慢 màn)

以上のように、つけて良いものといけないものが存在する。

そこで、この“-di:”には、どのような特徴があるのであろうか。今回は、それを以下のように、

1. どのような形が存在するか(第3節)
2. どのような品詞としてふるまうか(第4節)
3. モンゴル語本来の強調形をつかうことができるか(第5節)
4. その他(第6節)

という点をしらべることにする。

### 3 考察の対象とする語句

語句は以下のようにして採取した。

1. 漢語の音節表で、ひとつひとつインタビュー(an-di:, ban-di:, pan-di:, man-di: など)
2. AA 研の調査票で、形容詞になりそうなものをインタビュー(これでえられた語句はなかった)

“-di:”でおわる単語のほとんどは、漢語、もしくは、単音節とかんがえられるので、この方法で、主要なものは網羅されているとみてよからう<sup>7</sup>。

ただし、以下の語句一覧でもわかるとおり、すべて漢語に対応する語句があるわけではない。それらは、

1. この地域の漢語の方言形
2. 漢語・モンゴル語以外のもの(たとえば、満洲語など)

であるとおもわれる。おそらく1である可能性が高いが、今のところ、この地域の漢語については、未調査のため、はっきりした結論は、今回だすことができない。

#### 3.1 語句一覧

採取した語句を以下にあげる。意味でおおきく分類してあるが、ただ単に、語句をながめる際の便宜をはかっただけで、なにかを意図して、このように配列したわけではない。

##### 凡例

1. [形] = 形容詞, [副] = 副詞。この表示は、その語句がもっぱらその品詞でもちいられることをしめしている。副詞・形容詞のどちらでももちいられるものについては、無表示にしてある。この点については、4を参照のこと。

<sup>7</sup>いくつかモンゴル語とおもわれるものもあるが、それについては、6を参照。

2. 見出し語は、基本形であげてある。一部をのぞいて、すべて、反復形をもっている (ex. dandi: ~ dandandi: )。
3. 下線のついた語句については、5 を参照のこと。
4. わかるものに関しては、対応する漢語をあげておいた。漢語があがっていて、? がついているものは、かなりの憶測をふくむものだが、参考のためにあげておいた。

## 3.1.1 味覚

1. dandi: , 味がうすい (塩味にのみもちいる) , <ch. 淡 dàn , dabdandi:も可
2. la:di: (唐辛子などのように) ひりひりとからい , <ch. 辣 là
3. suaŋdi: , すっぱい , <ch. 酸 suān , suabsuandi:も可
4. tjendi: , あまい , <ch. 甜 tián
5. ɣendi: , しよっぱい , <ch. 鹹 xián
6. ɣaŋdi: , 香りのよい , <ch. 香 xiāng
7. tʃu:di: , くさい , <ch. 臭 chòu
8. ljendi: , だろどろした (お粥など) , <ch. 煉 liàn

## 3.1.2 物の形状など

1. lɔ:di: , 大きい , 非常に , <ch. 老 lǎo
2. ɣɔ:di: , ちいさい , <ch. 小 xiǎo
3. da:di: , 大きい (主に子供がふざけて用いる) , <ch. 大 dà
4. gɔ:di: , たかい , <ch. 高 gāo
5. pa:di: (家, 塀, 家具などが) ひくい (↔ 4 gɔ:ɣɔ:di: ) , <ch. 爬 pá? , cf. 6 nainaidi:
6. naidi: , ひくい (いえ, かべ, 家具などが) , (↔ 4 gɔ:ɣɔ:di: ) , <ch. 耐 nài? , nabnaidi:も可 , cf. 5 pa:pa:di: ,
7. duandi: , みじかい , <ch. 短 duǎn

8. pjɔ:di: , [形] (おもっていたよりも) かるい (子供や, 袋などが) , <ch. 漂 piāo?
9. bendi: , つぶれた , <ch. 扁 biǎn
10. piŋdi: / piɛŋdi: , たいらな <ch. 平 píng
11. waidi: (反復形無) , まがった , <ch. 歪 wāi
12. koŋdi: , [形] からっぽの , <ch. 空 kòng
13. naŋdi: , 1. タイヤやボールなどの空気がすくない , 2. 優柔不断な , <ch. 囊 nāng , náng?
14. guaŋdi: , つるつるな , ぴかぴかな , すべすべな , <ch. 光 guāng
15. mjendi: , [形] (布などが) やわらかい , (たべてみて) やわらかい (たとえば, パナナなど) , <ch. 綿 mián
16. zaidi: , [形] せまい , <ch. 窄 zhǎi?<sup>8</sup>
17. dʒindi: , きつ , <ch. 緊 jǐn dʒibdʒindi:も可
18. soŋdi: , ゆるい (ふくろのなかみが) へる , <ch. 松 sōng
19. suidi: , こなごなの , みじんぎりの , さくさくした , <ch. 碎 suì
20. tɔ:lɔ:di: (反復形無) , むこうがすけてみえる , <ch. 透露 tòu lù? , tɔbtɔ:lɔ:di:も可 ,
21. gaŋdi: , ほしたものがぱりぱりにかわく (魚や洗濯物など) , 煮つめすぎて汁がなくなる , <ch. 乾 gān?<sup>9</sup>

<sup>8</sup>本当ならば, dʒaidi: となるべきところである。<sup>9</sup>音節末の鼻音が対応していない。<sup>10</sup>音節末の鼻音が対応していない。

22. landi: ,きたない, <ch. 爛 làn  
 23. njɛŋdi: , [形] ねばねばの, <ch. 粘 nián<sup>10</sup>

## 3.1.3 人の性格など

1. fa:di: , ばかな, <ch. 傻 shǎ  
 2. bəndi: , [形] おろかな, <ch. 笨 bèn  
 3. ləŋdi: , 無鉄砲な, <ch. 愣 lèng  
 4. du:di: , けちな (5 ga:di: よりも, 意味が  
 つよい) <ch. 妬 dù?  
 5. ga:di: , けちな (子供を形容することが  
 おおい), <ch. 午 gǎ, cf. 4 du:di: ,  
gabga:di: も可?  
 6. dəŋdi: , 1. 並より上の生活の (↔ 7  
 ləidi:), 2. タイヤやボールなどに空気が  
 たくさんはいつた (↔ ?? naŋnaŋdi:),  
 3. (dəŋ のみで, お年寄りもちいる) 元気  
 <ch. ?  
 7. ləidi: , まずしい (人を形容するのにはも  
 ちいられない), <ch. 累 lèi  
 8. tɕiɯŋdi: , [形] まずしい, <ch. 窮 qióng  
 9. djo:di: / diaodi: , [形] ずるがしこい,  
 <ch. ? , djobdjo:di: も可?  
 10. guaidi: / guaite: , [形] ずるがしこい,  
 <ch. 乖 guāi  
 11. həidi: , 腹ぐるい, <ch. 黑 hēi  
 12. hoaidi: , [形] できそうもないことをいって  
 その場をとりつくろってごまかす, <ch.  
 話 huà, 嘩 huá?  
 13. hoaidi: , ひねくれた <ch. 壞 huài  
 14. zuedi: , [形] へそまがりな, <ch. 倔 jué

15. dʒendi: , 利己的な (わざと仕事をのろの  
 ろとやって他人に余分にやらせる, 暗い  
 ところで先にいかせる), <ch. 奸 jiān  
 16. ɣi:di: , [形] (仕事などが) 緻密な, こま  
 かい, <ch. 細 xì  
 17. tɕintɕindi: (反復形無), 仕事  
 が綿密な, がんばる, <ch. 勤 qín,  
tɕibtɕintɕindi: も可  
 18. fa:ləŋdi: (反復形無), すばやく仕事にと  
 りかかり仕上がりもすばらしい, <ch. ? ,  
fəbfa:ləŋdi: も可  
 19. kə:dʒiŋdi: (反復形無), 1. 血縁がち  
 かい, 2. 親身な, <ch. 靠近 kào jìn? ,  
kəbəkə:dʒiŋdi: も可  
 20. kuəŋdi: , [形] かつこいい, <ch. ?<sup>11</sup>  
 21. fuaidi: , [形] かつこいい, <ch. 率 shuài<sup>12</sup>  
 22. njo:di: / niaodi: , 勇気のある, 肝のす  
 わった, <ch. 尿 niào  
 23. nə:di: , = 22 njo:di: / niaodi: <ch. 尿  
 niào  
 24. tu:di: , [形] 言葉が上手な, <ch. ?  
 25. paŋdi: , [形] ふとった (子供を形容する  
 のにもちいる), <ch. 胖 pàng  
 26. tʃandi: , [形] 食いしん坊, <ch. 饕 chán,  
tʃabtʃandi: も可

## 3.1.4 状況・価値判断

1. jendi: , おいしげった, 密にはえた, <ch.  
 蔽 yán  
 2. lendi: (植物が) 青々としげった, <ch. ? ,  
leblendi: も可  
 3. mə:di: (容姿が) わるい <mo.maGu<sup>13</sup>

<sup>11</sup>インフォーマントによれば, 漢語でもここ数年はやりだしたのらしい。

<sup>12</sup>インフォーマントによれば, 漢語でもここ数年はやりだしたのらしい。

<sup>13</sup>このほかに, モンゴル語からのものは, 3.1.5 の 1 jamarjamardi: があるのみ。ただ, この mə:mə:di: は, 漢語の可能性もかんがえられるか?。6 も参照のこと。

- |  |   |
|--|---|
| <p>4. <math>\text{ɕuendi}</math> : [形] あぶなそうだ (他人の危機一髪の状態をみて) あぶなかった, &lt;ch. ?&gt;</p> <p>5. <math>\text{məndi}</math> : [形] むしあつい, &lt;ch. 悶 <math>mēn</math>&gt;</p> <p>6. <math>\text{kuxdi}</math> : [形] 感動的な (映画, テレビ, 小説などが), &lt;ch. 哭 <math>kū</math>&gt;</p> <p>7. <math>\text{tʃuendi}</math> , 全部そろった, &lt;ch. 全 <math>quán</math>&gt;</p> <p>8. <math>\text{fundi}</math> : [形] 純粋な, &lt;ch. 純 <math>chún</math> , <math>\text{tʃubtʃundi}</math>:も可&lt;</p> <p>9. <math>\text{dundi}</math> : (道具などが) つかいにくい, &lt;ch. 鈍 <math>dùn</math> , <math>\text{dubdundi}</math>:も可&lt;</p> <p>10. <math>\text{d}_3\text{u:di}</math> : [形] きつくしまつてまわらない (水道の蛇口, びんのふた, 自転車など), &lt;ch. 拘 <math>jū?</math> , <math>\text{d}_3\text{ubd}_3\text{udi}</math>:も可&lt;</p> | <p>11. <math>\text{dzo:di}</math> : [副] じゅうぶん, &lt;ch. 足 <math>zú?</math><sup>14</sup>&gt;</p> <p>12. <math>\text{d}_3\text{undi}</math> : 時間どおり, 思い通り &lt;ch. 中 <math>zhòng?</math> , <math>\text{d}_3\text{ubd}_3\text{undi}</math>:も可&lt;</p> <p>13. <math>\text{berdi}</math> : [副] 目的をたっせずに, むだに, (14 <math>\text{baidi}</math>: よりもつかう人がおおい), &lt;ch. 白 <math>bài</math>&gt;</p> <p>14. <math>\text{baidi}</math> : [副] = 13 <math>\text{berdi}</math> : , &lt;ch. 白 <math>bài</math> ,</p> |
|--|---|

### 3.1.5 疑問詞

1.  $\text{jamardi}$  : , どんな (形・様子), <mo.  $ya-mar$ >

## 4 どのような品詞となるか

### 4.1 モンゴル語の品詞

モンゴル語は, 名詞・形容詞・副詞が連続体をなしており, 意味的にゆるせば, どの品詞でもちいることも可能である<sup>15</sup>。

- (7)  $\text{sæ:n}$  「よい」
- a.  $\text{sæ:n nom}$   
よい 本  
「いい本」
- b.  $\text{ene nom } \text{sæ:n}$   
この 本-NOM よい  
「この本はいい」
- c.  $\text{tʃi: } \text{sæ:n sor-aa}$   
おまえ-NOM よく 勉強する-語気詞  
「しっかり勉強しなさい」
- d.  $\text{sæ:n-i: ab-aa}$   
よい-ACC とる (語幹)-語気詞  
「いいのをとりなさい」

<sup>14</sup> 本当ならば,  $\text{dzurdzudi}$ : となるべきところである。

<sup>15</sup> 伝統的にモンゴル語学では, 名詞, 形容詞, 副詞をあわせて「実詞」とよんでいる。

この例で, (7-a) は名詞を修飾し, (7-b) は述語形容詞となり, (7-c) は副詞として, (7-d) は名詞としてはたらいっている。

もちろん, すべてでこのようなことがあてはまるわけではない。

- (8) ola:n 「赤い」
- a. \*ola:n bod  
赤く める (語幹)  
「赤く塗れ」
- b. ola:n-a:r bod  
赤い-INS める (語幹)  
「赤く塗れ」

このような差異は, おそらく, 文法的なものというよりは, 規範的なものであろう。

## 4.2 “-di:” における品詞

おなじようなことが, “-di:” にもあてはまる。

- (9) ʒendi: 「しょっぱい」 (<ch. 鹹 xián), 3.1.1(5)
- a. ʒendi: nɔŋɔ:  
しょっぱい 料理  
「しょっぱい料理」
- b. ʒendi: tʃana-tʃix-tʃe:  
しょっぱく になる-強意-終止・過去  
「しょっぱく煮ちゃった」
- c. ʒendi:-g-i: id  
しょっぱい-挿入子音-ACC 食べる (語幹)  
「しょっぱい方を食べなさい」

以上は, かなりゆるやかにつかわれる例。

- (10) be:di: [副] 無駄に (<ch. 白 bài), 3.1.4(13)
- a. \*be:di: adʒil  
むだな 仕事  
「無駄な仕事」
- b. be:di: ir-tʃe:  
むだに くる-終止・過去  
「きたけど無駄だった」

以上は、副詞のみの例。

(11) bəndi: , [形] おろかな (<ch. 笨 bèn), 3.1.3(2)

a. bəndi: xun

おろかな 人  
「おろかな人」

b. \*bəndi: a:fil-dʒe:

おろかに ふるまう-終止・過去  
「おろかなまねをした」

以上は形容詞のみの例。おなじような意味の単語でも、つぎの場合には、形容詞としても副詞としても使用可能。

(12) ʃa:di: , ばかな (<ch. 傻 shǎ), 3.1.3(1)

a. ʃa:di: xun

ばかな 人  
「ばかな人」

b. ʃa:di: a:fil-dʒe:

ばかに ふるまう-終止・過去  
「ばかなまねをした」

このように、“-di:”をもちいる形も、ふつうのモンゴル語の単語とおなじようなふるまいを見せていることがわかる。

ちなみに、“-di:”の元とみられる漢語の“的”，“地”は、表記上のちがいとみられ、形容詞的用法の場合には“的”，副詞的用法の場合には“地”で、表記される。実際の発音は、どちらも də/di:で、かわりがない。

## 5 強調の仕方

次に、強調の仕方をみてみることにしよう。モンゴル語では、形容詞や副詞を強調するのに(「とても」などの副詞を用いる)語彙的な方法以外に、“第一音節 + b”を接頭辞として、文法的に強調することができる。

(13) xordan 「速い」 → xobxordan 「とても速い」

一方、“-di:”を用いた語句は、反復形にすれば強調されるため、このような語頭音節の反復による強調は、不必要である。

(14) çendi: 「しょっぱい」 3.1.1(5) → \*çebçendi:  
çençendi: 「とてもしょっぱい」

だが、少数ながら、語頭音節の反復で、強調をおこなうものがある(アクセントは、すべて語頭)。

- |                                   |  |
|-----------------------------------|--|
| 1. dabdandi: 「味がうすい」 3.1.1(1)     | 10. dubdundi: 「つかいにくい」 3.1.4(9)            |
| 2. suabsuandi: 「酸っぱい」 3.1.1(3)    | 11. dʒubdʒudi: 「きつくてまわらない」<br>3.1.4(10)    |
| 3. nabnandi: 「低い」 3.1.2(6)        | 12. dʒubdʒundi: 「時間通り」 3.1.4(12)           |
| 4. dʒibdʒindi: 「きつい」 3.1.2(17)    | 13. tɔbtɔ:lɔ:di: 「すけてみえる」 3.1.2(20)        |
| 5. gabgardi?: 「けちな」 3.1.3(5)      | 14. tɕibtɕintɕindi: 「がんばる」 3.1.3(17)       |
| 6. dʒobdʒordi?: 「ずる賢い」 3.1.3(9)   | 15. ʃabʃalɔŋdi: 「仕事のとりかかりが速い」<br>3.1.3(18) |
| 7. tʃabtʃandi: 「食いしん坊な」 3.1.3(26) | 16. kɔbkɔ:dʒiŋdi: 「血縁が近い、親身な」<br>3.1.3(19) |
| 8. leblendi: 「青々としげった」 3.1.4(2)   |  |
| 9. tʃubtʃundi: 「純粋な」 3.1.4(8)     |  |

上記のうち、13~16は、もともと基本形のみ<sup>16</sup>で、反復形がないため、語頭音節の反復で強調をおこなっているものと考えられる<sup>17</sup>。

さて、このなかで、?がついているもの(gabgardi, dʒobdʒordi)は、インフォーマントがかなり迷いをしめたものである。あまりしつこくたずねられると、あたまが混乱してくるという。おそらく、かなり微妙な問題で、個人差がある部分かもしれない。とは言え、かなりの単語について、言える言えないが、はっきりしていたことも確かである。

全72例中の16例(約22%)という数字が、統計的にどのような意味をもつのかはわからない。ただ、単純な反復形で強調できるというのに、なぜ、わざわざ語頭音節の反復をもちいるのかという問題には、使用頻度が大きくからんでいるであろう。また、ゆれがみられ、また個人差がありそうなことをかんがえれば、単純な反復形か、語頭音節の反復形かに、推移をしている最中ということも、かんがえられる<sup>18</sup>。

## 6 その他

その他、つぎのような問題もあるが、今の時点では、まとまった結論がえられていない。

### 6.1 “-di:”無しで、もちいられる例。

ほんの2例だけだが、“-di:”無しでもちいることのできるものがある。

- (15) lo: 「おおきい」 3.1.2(1)
- a. lo: xun / u:ɰ / ger  
大きい人 / とびら / いえ

<sup>16</sup>このことは、アクセントから判断できる。語頭音節の反復がない場合(つまり、3.1に上げられている形)、すべて、“-di:”にアクセントが置かれる。

<sup>17</sup>語頭音節の反復の場合、アクセントは語頭におかれる。

<sup>18</sup>個人的には、外来的なものからモンゴル語への移行と考えられないかとおもっている。

「大人・年寄り / 大きいとびら / 大きな家」

- b. lɔ: ɔrt bɔs-tʃe:  
非常に はやく 起きる-終止・過去  
「とてもはやく起きた」

この例の (15-a) では, lɔ: が, 単独で形容詞としてもちいられている。一方 (15-b) では, 形容詞を修飾する副詞として用いられている<sup>19</sup>。

(16) ɕɔ: 「ちいさい」 3.1.2(2)

- a. ɕɔ: xun / u:d / ger  
ちいさい人 / とびら / いえ  
4 「子供 / ちいさいとびら / 小さな家」

ɕɔ:の方は, lɔ:とことなり, もっぱら形容詞として用いる。

他の方言の話者が東北部の人をまねることがあるが, 実は, そのレパトリーは, lɔ:と ɕɔ:にかざられている(「あいつらは, lɔ:lɔ:di: ɕɔ:ɕɔ:di:ばかりで, モンゴル語がしゃべれない」など)。すなわち, この方言のなかでも, かなり目立つ存在であり, 使用頻度もかなりたかいものとみることができるかもしれない。

## 6.2 モンゴル語の単語のもちいられた例

jamardi: (3.1.5(1))と, mɔ:di: (3.1.4(3))は, モンゴル語に“-di:”が接尾した数すくない例である。

このうち, jamardi:は, モンゴル語の疑問詞 jamar (どんな)に接尾したものと, すぐにわかる。問題は mɔ:di:である。(疑問詞は特別扱いするとして)これだけ多くのなかで, 1つだけがモンゴル語(mɔ:<sup>20</sup>「悪い」)というのも, あり得ないとは言えないまでも, どこか気になる点がある。

## 参考文献

Čenggeltei

- 1978 <dumdadu ulus-un mongGul kelen-ü ayalGu-nuGud-i qubiyarilaqu tuqai sanal> (中国のモンゴル語諸方言の分類に関する意見), <<kele bičig-ün erdem sinjilgen-ü ögülel-ün tegübüri 3>> (語文学術論文集 3), 1986, 23-54, 内蒙古大学出版社

### 略号

ACC 对格		NOM 主格
ABL 奪格		副動 副動詞語尾
DAT 与位格		形動 形動詞語尾

<sup>19</sup> 今回の語句のなかで, このように形容詞にかかることのできるのは, この lɔ:のみ

<sup>20</sup> 他の多くの方言では, mɔ:であるが, この方言では, ɔ:が ɔ:と発音される。

終止 動詞終止形  
mo. モンゴル文語

ch. 漢語(本発表では、主に、“普通話”を  
さす)